

科目：日文測驗

系所組：跨文化研究所翻譯學碩士班中日組

注意事項：

1. 解答は、試験専用の解答用紙に記入してください。問題用紙には答えないよう注意してください。
2. 解答用紙の1ページ目に、下のように願書提出時に記入した選択言語名を書いてください。(A言語：_____語 B言語：_____語)
3. それぞれの問題にはすべて日本語で解答してください。翻訳ではありませんので、注意してください。

試験時間は90分です。下記の各問題の内容や配点を確認してから始めてください。

一、次の文章の(1)～(50)に適切な言葉を入れてください。(1点×50=50点)

JAL初の女性社長 同じ59歳元CA「子育て世代、生かして」

「驚きずくめ。私にとってはとても笑顔(1)なるニュースでした」。日本航空(JAL)(2)1月17日に同社初となる女性社長の就任(3)発表したことを(4)け、JALの元客室乗務員(CA)で明星大特任教授の児玉桜代里(さより)さん(59)は期待を膨らませた。

「実力で登用、JALの決意感じる」

日本航空の専務から4月1日付で社長(5)昇進する鳥取三津子さん(59)は短大卒。1985年4月に東亜国内航空(後の日本エアシステム=JAS)に入社し、長らくCA(6)務めた。日本航空が51年8月に設立されてから72年あまりの歴史の中(7)、短大、CA、2002年に日本航空に経営統合された旧JAS出身者が社長(8)就任(9)のも初めてで、異例ずくめの人事だ。

「最近現場経験者の幹部も多いです(10)、とうとう元CAの社長が誕生するとは……」。鳥取さんと同じ85年に日本航空に入社し、国際線のCA(11)して活躍した児玉さんは驚きを隠さない。「昇任するには本人の努力だけでなく、能力、実力を公平、適正(12)評価する上司がいないといけません。本当に実力が(13)人を登用していこうというJAL(14)決意を感じました」

女性CAは「スチュワーデス」と呼ばれた時代

2人が入社した85年は、男女雇用機会均等法が施行される1年前。CAは性別(15)よって呼称が異なり、女性は「スチュワーデス」と呼(16)ていた時代だ。児玉さんは「短大卒の私は、4年制大学を卒業し、留学経験のある同期もいて引け(17)を感じることもありました」と振り(18)る。後輩であっても、総合職(19)して入社した男性は、児玉さんら専門職の女性に(20)へ昇進するのが早(21)という。「客室乗務員は女性ばかりの世界で、人間関係の難しさがありました。当時はマネジメントに立つのは男性が多かったです」

(22) するためには、通常の業務をこなしているだけ(23) 難しく、特別な貢献を積み重ねる必要があった。「活躍するためにはチームワーク(24) 必要だし、人を引っ張っていく力がないと評価されません。鳥取さんは実力だけでなく、人間的な魅力もあるのではと思いました」

妊娠告げると、上司が落胆

児玉さん自身は、20代後半で結婚と出産(25) 経験した。統括責任者への昇進を目指していたもの(26)、国際線の乗務員は1週間家を(27) けることもあったため、妊娠した時点で「第一線から(28) たという気持ちでした」と語る。

妊娠を上司(29) 告げると、「(昇進に向けて) せっかく推薦しようと思っていたのに」
と落胆さ(30) た。休職中は昇進に関わる成績がつかず、同僚らが昇進していくのに焦り(31) 感じた。その後、CAに復帰したが、フライトのスケジュールに左右(32) するため定期的な予定が組みにくく、ベビーシッターの利用も難しかったことなどから95年に退職した。

「現在は変わっているかもしれませんが」と前置きしつつ(33)、リモート(遠隔)や在宅での勤務が難しい業種で、女性が仕事を続けていく難しさを指摘する。

たくさんの能力が眠る子育て世代

東京商工リサーチによ(34)、約400万社を対象(35) 実施した2023年の調査で、全社長のうち女性が占(36) 割合は、10年の調査開始以来最高となる15%(37) 及んだ。産業別では不動産業(25%)がトップで、サービス業他(19%)、小売業(15%)などが続いた。一方、航空運送業(7%)は建設業(5%)などと並び、1桁台にとどまった。

全体的に見れば、13年11%▽17年13%▽21年14%▽23年15%——などと緩(38) に女性の社会進出が進んでいる実態がうかが(39) が、上場企業約4000社(40) 限ると23年はわずか1%だった。児玉さんは「30代の子育て世代(41) たくさんの能力が眠っています。その力をどう生(42) ていくのか、JALは率先して行動し、他の業界(43) も良い影響が広(44) ていくことを期待します」と話す。

大学では経営学部にも所属し、学生にキャリアデザイン(45) についてアドバイスする機会も多いという児玉さん。若者に向けて、こんな気持ちも抱いている。「私自身も入社した際は、将来、大学(46) 教えているとは思いませんでした。鳥取さん(47) きっと自分が社長になるとは思っていなかったのでは(48) でしょうか。さまざまな人生の節目を迎えて目標が変(49) ることはありますが、『目の前にチャンスが来(50) 積極的に挑戦してみよう』と伝えたいです」

宮川佐知子「JAL初の女性社長 同じ59歳元CA『子育て世代、生かして』」(毎日新聞 2024年1月26日)より改変

二、下の二つの文章を読み、文章1、文章2ともそれぞれの内容を150字程度に要約してください。ただし固有名詞以外は違う表現で言い換え、箇条書きではなく短い文章としてまとめるようにしてください。(25点×2=50点)

文章1

ポーランドに「翻訳のシェイクスピア」の名で語られる半ば伝説的な翻訳家がいた。中世から二十世紀までのフランス文学をほとんどひとりでポーランドに紹介してしまったという。タデウシ・ジェレニスキー、別名ボーイ。医者だったのが転業して翻訳家になり、おまけに、詩や歌も書けば、文学評論や社会評論にも筆をふるった。

ジェレニスキーの翻訳した作品を一瞥すると思わず唸ってしまう。

中世文学の『ロランの歌』やヴィヨンの詩集、古典主義文学のラシーヌ、ラ・ファイエット、デカルト、パスカルといった哲学者たち、ヴォルテールやディドロのような啓蒙思想家たち、十九世紀文学のスタンダールやバルザック、さらには、ジード、ブルーストといった二十世紀文学にいたるまで、ジェレニスキーは実に三十五人のフランスの著者をポーランド語に翻訳した。三十五人の作家たちを三十五の文体に訳し分けた。

日々翻訳に悩まされている人間のひとりとして、時代も作風も違うこれだけの作家をよくもまあ訳したものだ、ただ感嘆するばかりである。翻訳というものは、経験をつむほどそのむずかしさがみえてくるものだ。なにか言語の壁が立ちはだかっているような気がしてくる。これは私自身が痛感していることだが、同じような感じかたをしている翻訳家も少なくないようだ。ジェレニスキーはたしかに翻訳のシェイクスピアの名にふさわしい。

じつをいうと、私がジェレニスキーにとくに好感をもってしまったのは、医者だった彼がパリ滞在がきっかけで翻訳家に転身したからだった。こんな破格な翻訳家と比較するのは少々気がひけるが、じつは私も、生体物理の研究者のはしくれだったのが、パリに住んだおかげで、翻訳家の仲間入りをすることになった。言葉の世界という自分にはあまり縁のなかった世界をふいに発見し、無我夢中で言葉の勉強をしたころの、あの新鮮な驚きと感動を、このポーランドの翻訳家の話は、私によみがえらせてくれた。

異文化との接触はときにはひとの人生を大きく変えてしまうものだ。翻訳家には「転職組」がけっこう多いのである。(857字)

辻 由美『翻訳史のプロムナード』(みすず書房、1993年)より抜粋。

文章2

ここ数年、従来とは違う、新しいタイプの中国人が日本へ移住するようになってきた。都内のタワーマンションを“爆買い”して話題になったり、インターナショナルスクールに子どもを入れたり、中国人富裕層や、言論や表現の自由を求める知識人・文化人が、中国を離れ、日本に移り住むケースが増えてきているのだ。

こうした経済的に余裕のある中国脱出組に特に人気なのが、外国人企業経営者向けの在留

資格「経営・管理ビザ」だ。法務省が発表する在留外国人統計によると、日本でこのビザを保有する中国人は2022年6月に約1.4万人だったのが、2023年6月は約1.8万人になった。22%増というのは、これまでにない急な増え方である。

経営・管理ビザは外国人が日本で起業するための在留資格を得られるビザだが、日経新聞などが昨年10月に「外国人の企業誘致へ要件緩和 出資金なしで2年滞在可能」と報じたように、2024年度にはさらに要件が緩和される見込みだ。そしてこのビザの取得者の約半数を、中国人が占めているのだ。

中国人が海外へ移住する～これはいわゆる「潤 (ルン)」と言われる動きで、今後ますます加速していくと思われる。さらにこれは世界的な現象で、中国人の脱出先は日本だけではない。今後、日本がこうした人々をどのように受け入れるのか考える上でも、世界の趨勢を把握することが不可欠だ。

「潤」とは、先進国など、より豊かな国へ移住することだ。「潤」の字を中国の発音表記 (ピンイン) で表記すると run であることから、原義の「潤う」と英語の run (逃げる) でダブルミーニングとなっており、お金を稼ぐ (潤う) ために海外で働くというだけでなく、国内の状況悪化に伴い海外へ逃げ出すというニュアンスがある。

本格的に流行するようになったのは、2022年に中国随一の国際都市・上海で厳しいロックダウンが実施されて以降だ。さらに、中国政治の集権化、経済減速が鮮明になってきたこともこの動きを加速させる要素となっている。また、「潤学」という言葉もあり、こちらは「潤」の考え方を体系的に学んだり、具体的な方法を研究したりすることを意味する。

そんな「潤」の実態が垣間見えるのが、「潤学綱領」という、「潤」を実践する有志によってまとめられたサイトだ。

「潤は中国人にとって唯一の真の宗教であり、唯一の真の哲学といえる。それは物理的な救済を信じる宗教であり、その実質的な価値は、精神的な救済を追求するキリスト教徒に匹敵するものである。潤の人たちはまだ潤していない人たちを助けることを喜びとし、彼らを現実の『地獄』から救う」とうたう。

その上で、中国15億人 (筆者注：中国政府発表の人口は14億人あまり) のうち、年収12万人民元 (約244万円) 超が1億人ほどおり、そのうち約1000万人が「情報封鎖」を突破し、外部ネットワークにアクセスする条件を備えており、さらにそこから200万人の特権階級や既得利益者を除く800万人が潜在的な「潤」だと推計する。 (1201字)

舛友 雄大「中国人の海外脱出が急増中！
「潤」で日本移住→タワマン爆買い・インター入学する“新しい国人”とは？」
--Diamond Online(2024.1.24 12:00)より抜粋。

※ 注意：1. 考生須在「彌封答案卷」上作答。

2. 本試題紙空白部份可當稿紙使用。

3. 考生於作答時可否使用計算機、法典、字典或其他資料或工具，以簡章之規定為準。